

# 東アジア反日武装戦線の反侵略武装闘争を断り擁護せよ。

## 労働者共産主義委員会

警察力は、五月二九日「東アジア反日武装戦線」のメンバーであるとして、八名を逮捕し、三名を指名手配した。そして、逮捕者たちを、一連の侵略企業の爆破闘争の実行者であるとして反革命的起訴を行い、スゴロト裁判、極刑攻撃をもくろんでいる。

支配階級とその手代たちは東アジア反日武装戦線のたにかいの政治的性格を抹殺し、爆弾マニア、なるものにしたてあげるとともに、武装戦線組織を孤立させ、潰滅せんとしている。

わが共産党は、政府、警察力の弾圧を断り糾弾し、反侵略武装闘争を断り擁護するとともに、敵の弾圧を反面教師として、支配階級との政治斗争、武装斗争、対敵工作をポロトタリや狼狽のためにおしすすめることを呼びかける。

### 日

敵軍力とブルジョアジャーナリズムは、東アジア反日武装戦線の闘争を、狂気の爆弾マニアであると描きだし、闘いの政治的性格を消し去ろうとしている。

東アジア反日武装戦線のたにかいは、その奮闘的性格からしても、彼らの通信、声明からしても、完全に明瞭に政治的、階級的な斗争である。

三菱、三井は、商社を名目にオセアニア諸国へ進出し、とりわけ、アジア諸国への新植民地主義的侵略の頭目である。

同組は、マラヤでメニエールの建設を強行し、マラヤ人民武装勢力の攻撃、糾弾、警告にもかかわらず、マラヤ反革命闘争に守られ、撤収することなく採取収奪を繰り返している。

六五年の日韓条約以降十年間に、日本の大部分の独占企業はラビに相当多くの中小企業は、韓国へ移すのごとく進出し、韓国を隷従させ、搾取、収奪し、はげしいものをほしいままにしている。

旭硝子や日本化学などは、公然と公害企業を輸出して

ている。

日本帝国主義は、米帝のインドシナ侵略戦争に加担し、協力しただけでなく、アジア諸国に進出し、アジア人民の公然たる敵となっている。

東南アジア、韓国の労働人民の反日米帝闘争、マラヤ人民の同組攻撃、タイの旭硝子の公害糾弾、南朝鮮人民の日本化学進出糾弾等々と呼ぶ、断り闘争こそが、日本の労働者人民の国際主義的義務である。

東アジア反日武装戦線のたにかいは、そうした国際主義的たにかいの一つの手本であり、断り支持、擁護しなければならぬ。

「大倉組（大成建設）は明治維新期以来、政商、日死の商人として日本反革命闘争とともにあり、台湾、朝鮮、アイヌモシリ、沖縄、中国、大陸、東南アジア侵略の尖兵をつとめ、本国下民のポロトタリからの搾取と韓国、インドネシア、マラヤ、ブラジルへの侵略を推進している。新旧日本帝国主義の代表的企業であり、大成建設の今日、一九三三年新潟県公債濃霧力、信濃川水力発電所工事現場で、大量犠牲された朝鮮人労働者等植民地人民の血と涙のうそにまみれている。」（東アジア反日武装戦線、大地の牙、情報部の声明より）といふ事實は、糾弾されて当然である。

「韓国産業界研究所は、日帝企業者の韓国、台湾、マラヤ侵略に責任する活動を停止せよ、オリエンタル製造社にける韓国工業団地植民地団の派遣を中止せよ、オリエンタル製造は、韓国から撤退し、在韓資産を放棄せよ、一九七五、四、一九、反日武装戦線」といふ要求は正しく正当である。

同組は、明白にマラヤ武装解放勢力の敵であり、マラヤ解放人民戦線の敵であり、同組がマラヤ人民の警告をうけ入れないと宣言している限り、同組が内外からの攻撃を受けるのは、全く当然である。

東アジア反日武装戦線の同組への攻撃は、マラヤ人民

の革命戦争にたいし戦略的に呼応したバルチザン戦争であ  
り、断乎支持されねばならない。

インドネシアの人民の革命戦争の偉大な勝利に鼓舞さ  
れ、アジア、アフリカ、ラテンアメリカで時国々、シ  
オニズム、人種主義、反動派のたたかいが前進して  
る。

東南アジアでは、タイ、ビルマ、マラヤ、「フィリピン」  
で、人民武装勢力が防衛から対峙入むべき敵の攻撃と死力  
を尽したたかっており、都市、農村での大衆的な反  
政府闘争、反革命戦争にちかづいてくる。韓国では、統  
一革命党の闘い、反共勢力の闘いが持続的につづいて  
いる。

このアジアの人民の闘いは、米帝とともに日帝侵略者  
にたいし有利である。

アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方  
である日本における革命階級の国際主義的闘争は、日  
本ネトリズムを打倒し、米軍を追放し、アジア、ア  
フリカ、ラテンアメリカの利益、特権を放棄する革命戦  
力を樹立すること、革命の勝利にいたるまでは、アジア  
人民の闘いに呼応して侵略者にたいする闘いを革命階級の  
前進不可分のものとして政治、軍事、思想の各方面に  
おいてすすめるべきである。

東アジア反日武装戦線のたたかいは、大衆を鼓舞して  
いる。

三菱重工業は「重工業破壊が、いかなる状況によるも  
のであれ、三菱は深く感謝している」(新産業、七四、九  
二五、ヤ一九六号)とのみ、次のように報告をしている。  
「職制と日米としてわかか数名の協力を除いては、日  
くたばれ三菱のたうつ三菱はと悪んでくる。日米  
心ある時には、無神経にしなければい。それならエを  
くすめて親指のうらみの受信機を持って来い日米といった意  
見が組合の班会議で出されると大きな拍手があく。日米  
や協会が何とかが、弟仲者のしかばねの上にもそり  
たつ重工業は増悪の対象ではない。そこに都が人  
種を一般市民と、三菱の現場労働者はとも思つて  
はならない。

韓半島は「日帝のマシマ進法に反対し、それを阻止し  
ようとする意図を理解する」(日米)といはが、その  
やり方、手段はあやまつている。日米の目的にしてかつ直  
接的価値資本へのバラバラな打撃のつみかきねにまつ

ては日帝国家権力を打倒することほできなはいはかりでな  
く、朝鮮、アジア人民との連帯もかちとれない。日帝  
攻撃している。侵略者、日帝への闘いにたいし日帝国家  
権力打倒がべきでないといっているのは白を黒とい  
くめるだ。批判である。

侵略企業科弾争は、アジア人民と連帯、呼応するも  
のであり、韓半島の小ブル的攻撃争よりも、はるかに  
深くアジア人民の闘いと呼応している。

### ②

支那警察、警察権力は、東アジア反日武装戦線のたた  
かいが明確な政治的目的をもつており、そのたたかいか  
継続性をもち、斗う人民の共感を呼んでくる。この政治  
的、この反日武装戦線をほじめ斗う武装した組織を孤立  
させ、潰滅させる集中的攻撃をおこなつてくる。

福田国家公安委員長、土田警視總監は、反動のブルジョ  
ア階級を「匪徒」として、一方で、秘密の特捜隊、  
を組織し、過激派狩り、という名の弾圧活動を、他  
方で、過激派をさがせりなる大宣伝を組織し、小ブル的  
分子をわかの側に引きよせようとした。

敵の新しい攻撃体制の強化と東洋の反動攻撃を反動教  
師として、非公然、非合法活動をつくりだせばならな  
い。

敵のスピード裁判、極刑せしめ攻撃、テラフメな  
捜査などにたいする反弾圧攻撃戦線でのたたかい、敵  
公安政治警察の戦士協賛会への攻撃を断つる能力を  
獲得することが要求されている。

敵権力は、反日武装戦線をほじめ、関ヶ原への治安  
攻撃を強めている。日本赤軍への国を敵、共産圏系の敵  
士の追及、わが党共産への攻撃は強化されている。  
六月三日、浅沼警察庁長官は、全日警察本部長会議で  
「当面、最も緊急を要する問題は、過激派集団が本格  
化させようとしているテロ、テリラ闘争である。過激派  
集団の動きを的確につかみ、引き続き警戒、捜査に力を  
いれてほしい」と指示した。

沖繩では、海洋博覧会にせき空襲の反弾圧体制をひき  
全く不自由な弾圧をさし、検挙、拘束を相次いで強  
行している。

沖繩タイムスは、「警察の厳しいチェックにもかかり  
ながら、過激な赤軍派が県内に潜入していった。その指導  
者が日海博新報、皇太子の沖止りなどと呼んで自殺

した事件は、過剰に大きなショックを与えており、警察も必ずしも他の過激派のメンバーが潜伏している可能性が強いと判断、これまでの取り締まり体制の再検討をすることも下捜査員を擁護したと報じている。敵は沖縄で戦術的部分への弾圧を開始している。

このときばかりで、二月二〇日に「東アジア反日武装戦線への弾圧とたたかう集大成」が計画され、爆撃攻撃への反撃を組織しようとしている。

わが国共産党は、これを断然支持し、戦力の攻撃から組織を防衛し、反撃を組織しなければならぬ。

### 図

東アジア反日武装戦線、彼らは自己の行動指針を次のように打ちだしている。

「反日闘争は、戦術的段階こそが、日本帝国への唯一の要諦任務である」「われわれは、アイスランド、沖繩人民、朝鮮人民、台湾人民の反日闘争に呼応し、彼らの叫びを遂行するべく反日帝の武装闘争を軌ように叩く狼である。

われわれは、新日帝の主義者、旧日帝主義者、植民地主義者、帝国内のマイノリティ、同化主義者を標的とし、新日帝の主義、植民地主義企業への攻撃、財産の没収などを主要任務とした。彼らである」「(備忘録)

「武装闘争を、大衆運動の自然的延長線上に植えてはならない。武装闘争は都市ゲリラ戦は、自ら決意を凝らし、自ら準備を始めることから出発する。」「(同)

彼らは、日帝打倒のメロディを掲げているが、彼らのたたかひの目標、性格は、植民地主義者、植民地企業を標的とする反侵略武装闘争にあり、その戦力形態は、都市ゲリラ戦、都市ゲリラである。

彼らは、カトリック解放闘争をおすすめる組織とこのよりは、反侵略のゲリラ戦を遂行する武装ゲリラ戦組織といふのがふたつありの意である。

東アジア反日武装戦線は、この意味で、アジア人民の叫びと呼応し、日本帝国主義の侵略を叩くという明確な政治的目標を掲げ、武装を叫んでも明確な政治目標を示さないものたちと区別される。

日本は、反共テロ集団と呼び「泳がせ」を反論し「各種テロ集団を組織させていけば、昨年来の一種の事件はありたなかった」と戦力の弾圧強化を要求している。

だが、日本帝国主義の侵略と反動、抑圧、弾圧が強ま

れば、人民の武装したたたかひは不可避になるのである決して消滅することはない。

わが国共産党は、このように侵略と反動にたいする戦力的人民のたたかひを断然支持する。

マルスマル共闘などは、テロリズム反対と騒々しくさげむ、そのことによつて、ゲリラ戦、ゲリラ、赤色テロルに反対している。

いわく「反日運動の主体たるカトリックの階級的口を舌巻し、その強力な組織化の彼岸において、いなく」「このように個人ヤインテリ・クルーのテロルによつては、現代の総資本家の社会を破壊することはおろかしくからの打撃をえええることにはまきない」「いわく「真の労働者階級の組織化という事業から、労働者や直接的活動家の目をそらすだけである」「いわく「公然部分がない」などなど。

だが、テロリズムに反対するといふ名目、ゲリラ戦、ゲリラを否定し、それに反対するものは、マルクス主義、レーニン主義に反対するものである。

わが国共産党は、ゲリラ戦をカトリックの戦術形態の一つであることを承認し、戦術として承認採用する。あらゆる方面から敵を攻め、武装闘争を準備し、かつ敵の白旗テロルや武装攻撃に有効な反撃をせしめる力を養うためには、政治闘争、武装闘争、対敵闘争をすすめるのはむねである。

わが国共産党は、マルクス主義、レーニン主義の普遍的原則に立脚し、階級のためたたかひ正し政治方針をもつた階級闘争として自らをきたえ、強大な革命階級組織へと発展させることも、武装闘争の戦力形態としてゲリラ戦、ゲリラを擁護しおすすめることが必要だと考えている。

カトリックは世界における反日帝と革命の戦争の勝利のため、革命戦争の主戦場に呼応してたたかふことが必要とせざることを、支配階級の侵略、反動、専制、武装弾圧などにたいし武装して闘うことが必要とせざることを武装闘争を必要としている。

それだけでなく、敵のより大規模な、より本格的な戦争や、武装闘争にたいしては、訓練され、実践の経験ある階級と多くの戦士を必要とすることが、今日の武装闘争を準備運動が必要としている。

わが国共産党は、政治的闘争、対敵工作とともに武装闘争に、闘うこと、半武装闘争のゲリラ戦を断

を支持するものである。

帝国主義者、シオニスト、反動派の侵略、反革命の戦争の策動は、人民の武装闘争が必要であることをますます明白にするであろう。

革命運動の前進を促すためには、バルカン行動ではなく、そうした陣線を革命運動の系統的前進と結びつけ、実践し、指し、掌握することができなければならない。革命運動の限界にある。

非同盟人民の側には、支那階級と即ち戦国を支持する。これは、共産主義者の義務である。

東マシヤ及び欧米戦線の陣線にたいし、尙建設と結びつけていながら、公然部分がないとかいつて反対することは、固い政治的意を抹消するものであり、敵と味方の境界を曖昧にする結果をもたらすといわねばならない。

だが同時に、バルカン陣線の陣線、バルカン戦線を唯一の陣線とせよ、あるいは主要な陣線とせよとみなすことはできないという点、この陣線は、他のいろいろな陣線に從属してなければならぬこと、もう一つの主要な陣線とつりあつていなければならぬ、社会主義の建設し、組織化する影響を十分に感化されていなければならぬという点、トローツキを擁護する、バルカン組織とバルカン行動を促すカロータリヤ革命闘争の利益に結びつけねばならない。

革命闘争の進行におしすすめ、武装を強化し、政治的・軍事的半力を組織し、対敵工作を系統的になし、その一環として、断片たるバリラ、バルカン戦を組織、指し、することがいわれの課題である。